

注3

大学番号：私057

[平成31年度設置]

計画の区分：大学院の設置

注1

認可

亀田医療大学大学院

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人鉄蕉館
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	管理部学務課
職名・氏名	カカリチョウ ウスイ トヨカズ 係長 碓井 豊一
電話番号	04-7099-1211
（夜間）	04-7099-1211
F A X	04-7099-1327
e-mail	kamedadai gaku@kameda. ac. jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

看護学研究科

＜看護学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	13
6. 附帯事項等に対する履行状況等	26
7. その他全般的事項	27

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人鉄蕉館

(2) 大学名

亀田医療大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

横渚キャンパス

〒296-0001

千葉県鴨川市横渚462番地

東町キャンパス

〒296-0041

千葉県鴨川市東町 1343番地4

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(カメダ ショウゴ) 亀田 省吾 (平成21年4月1日)		
学長	(ハシモト ユウジ) 橋本 裕二 (平成28年4月1日)		
研究科長	(ニッタ シズエ) 新田 静江 (平成31年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)
令和2年度に報告する内容 → (2)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
看護学研究科 看護学専攻 修士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	2年	10人	一年次 一人	20人	【基礎となる学部】 看護学部看護学科

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和元年度		令和2年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	10人 (-) [-]	一人 (-) [-]	10人 (-) [-]	一人 (-) [-]	1.15倍	一倍	長期履修生4名入学 (3年間3名、4年間1名) (元) 長期履修生8名入学 (3年間5名、4年間3名) (2)
志願者数	13 (-) [-]	- (-) [-]	10 (-) [-]	- (-) [-]			
受験者数	13 (-) [-]	- (-) [-]	10 (-) [-]	- (-) [-]			
合格者数	13 (-) [-]	- (-) [-]	10 (-) [-]	- (-) [-]			
B 入学者数	13 (-) [-]	- (-) [-]	10 (-) [-]	- (-) [-]			
入学定員超過率 B/A	1.3		1				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度							備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期						
1年次	13 [-] (-)	- [-] (-)	10 [-] (-)	- [-] (-)						長期履修生4名入学 (3年間3名、4年間1名) (元) 長期履修生8名入学 (3年間5名、4年間3名) (2)
2年次	/		12 [-] (-)	- [-] (-)						
3年次	/		/							
4年次	/		/							
計	13 [-] (-)		22 [-] (-)							

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	13 人	1 人	令和元年度	1 人	0 人	就学意欲の低下(1人)
令和2年度	22 人	0 人	令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
合 計		1 人		1 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{13} = \boxed{7.69} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{22} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学研究科 看護学専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目群	共通科目	看護理論	1前	2		1						2
		看護研究	1前	2		1	1					
		コンサルテーション論	1後	2		1						
		看護教育論	1後	2		1						
		看護倫理	1前	2		4		2				
		医療人間学	1後	2		1						
		医療統計学	1後	2		2						
		フィジカルアセスメント	1後	2		3	1					
		病態生理学	1前	2		1	1					
		ケアシステム論	1後	2		5	1	1				
小計(10科目)	-	4	16	0	9	4	3			11		
専門科目群	看護管理学	看護管理学特論Ⅰ(看護管理論)	1前	2		1	2					
		看護管理学特論Ⅱ(看護組織論)	1後	2		2	1					
		看護管理学特論Ⅲ(人材育成と活用)	1後	2		1	1	2				
		看護管理学特論Ⅳ(安全管理学)	1後	2		1	2					
		看護管理学演習	2前	2		2	2					
		看護管理学特別研究	1後~2進	8		2	2					
	小計(6科目)	-	0	18	0	2	2	2				
	実践看護学	実践看護学特論Ⅰ(成人看護)	1前	2		2		1				1
		実践看護学特論Ⅱ(精神保健看護)	1前	2		1		1				1
		実践看護学特論Ⅲ(小児看護)	1前	2		2						
実践看護学特論Ⅳ(在宅看護)		1前	2		1	1					3	
実践看護学演習		1後	2		5	2	3	2				
実践看護学特別研究	1後~2進	8		5	1	1						
小計(6科目)	-	0	18	0	6	2	3	2		5		

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目群	共通科目	看護理論	1前	2		1						2
		看護研究	1前	2		1	1					
		コンサルテーション論	1後	2		1						
		看護教育論	1後	2		1						
		看護倫理	1前	2		4		2				
		医療人間学	1後	2		1						
		医療統計学	1後	2		2						
		フィジカルアセスメント	1後	2		3	1					
		病態生理学	1前	2		1	1					
		ケアシステム論	1後	2		5	1	1				
小計(10科目)	-	4	16	0	9	4	3			11		
専門科目群	看護管理学	看護管理学特論Ⅰ(看護管理論)	1前	2		1	2					
		看護管理学特論Ⅱ(看護組織論)	1後	2		2	1					
		看護管理学特論Ⅲ(人材育成と活用)	1後	2		1	1	2				
		看護管理学特論Ⅳ(安全管理学)	1後	2		1	2					
		看護管理学演習	2前	2		2	2					
		看護管理学特別研究	1後~2進	8		2	2					
	小計(6科目)	-	0	18	0	2	2	2				
	実践看護学	実践看護学特論Ⅰ(成人看護)	1前	2		2		1				1
		実践看護学特論Ⅱ(精神保健看護)	1前	2		1		1				1
		実践看護学特論Ⅲ(小児看護)	1前	2		2						
実践看護学特論Ⅳ(在宅看護)		1前	2		1	1					3	
実践看護学演習		1後	2		5	2	3	1				
実践看護学特別研究	1後~2進	8		5	1	1						
小計(6科目)	-	0	18	0	6	2	3	1		4		

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目群	ウイメンズヘルス・助産学	ウイメンズヘルス特論	1前	2		2						2
		周産期ケア特論	1・2後	2								5
		助産マネジメント特論	1・2前	2		1						2
		ウイメンズヘルス特論演習	1後	2		1		1				2
		ウイメンズヘルス・助産学特別研究	1後～2後	8		2						
		助産学概論	1前	2		2						
		助産学展開論	1後	2		2						
		ウイメンズヘルス教育論	1前	2		1		1				
		周産期診断治療論	1後	2								6
		助産診断・技術論Ⅰ(妊婦・産婦の助産ケア)	1前	2		1		1				
		助産診断・技術論Ⅱ(精神と胎児の助産ケア)	1前	2		1		1				
		助産診断・技術演習	1前	2		1		1	1			
		地域母子保健論	2前	1		2						
		助産管理論	2前	2		1						2
		地域助産実習	2前	1		1		1				
		助産管理実習	2前	1		2		1	1			
		助産学実習Ⅰ	1後	2		2		1	1			
		助産学実習Ⅱ	1後	4		2		1	1			
		助産学実習Ⅲ	1後	2		2		1	1			
		継続事例実習	1後～2前	2		2		1	1			
		周産期ハイリスク実習	2前	1		1		1	1			
小計(21科目)			46		2		1	1			15	
合計(43科目)			4	98	0	9	4	6	3		30	

卒業要件及び履修方法

所定の在学年限を満たし、以下の所定単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、研究論文についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。

(1)看護管理学 30単位

- ①共通科目14単位【看護研究2単位、看護倫理2単位は必修、そのほか共通科目から10単位】
- ②専門科目16単位【看護管理学特論Ⅰ(看護管理論)、看護管理学特論Ⅱ(看護組織論)、看護管理学特論Ⅲ(人材育成と活用)、看護管理学特論Ⅳ(安全管理学)の中から6単位、看護管理学演習2単位、看護管理学特別研究8単位】

(2)実践看護学 30単位

- ①共通科目14単位【看護研究2単位、看護倫理2単位は必修、そのほか共通科目から10単位】
- ②専門科目16単位【実践看護学特論Ⅰ(成人看護)、実践看護学特論Ⅱ(精神保健看護)、実践看護学特論Ⅲ(小児看護)、実践看護学特論Ⅳ(在宅看護)、看護管理学特論Ⅳ(安全管理学)の中から6単位、実践看護学演習2単位、実践看護学特別研究8単位】

(3)ウイメンズヘルス・助産学(助産師有資格者) 30単位

- ①共通科目14単位【看護研究2単位、看護倫理2単位は必修、そのほか共通科目から10単位】
- ②専門科目16単位【ウイメンズヘルス特論、周産期ケア特論、助産マネジメント特論、ウイメンズヘルス特論演習の8単位、ウイメンズヘルス・助産学特別研究8単位】

ウイメンズヘルス・助産学(助産師無資格者) 60単位

- ①共通科目14単位【看護研究2単位、看護倫理2単位は必修、そのほか共通科目から10単位】
- ②専門科目46単位

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目群	ウイメンズヘルス・助産学	ウイメンズヘルス特論	1前	2		2						2
		周産期ケア特論	1・2後	2								5
		助産マネジメント特論	1・2前	2		1						2
		ウイメンズヘルス特論演習	1後	2		1		1				2
		ウイメンズヘルス・助産学特別研究	1後～2後	8		2						
		助産学概論	1前	2		2						
		助産学展開論	1後	2		2						
		ウイメンズヘルス教育論	1前	2		1		1				
		周産期診断治療論	1後	2								6
		助産診断・技術論Ⅰ(妊婦・産婦の助産ケア)	1前	2		1		1				
		助産診断・技術論Ⅱ(精神と胎児の助産ケア)	1前	2		1		1				
		助産診断・技術演習	1前	2		1		1	1			
		地域母子保健論	2前	1		2						
		助産管理論	2前	2		1						2
		地域助産実習	2前	1		1		1				
		助産管理実習	2前	1		2		1	1			
		助産学実習Ⅰ	1後	2		2		1	1			
		助産学実習Ⅱ	1後	4		2		1	1			
		助産学実習Ⅲ	1後	2		2		1	1			
		継続事例実習	1後～2前	2		2		1	1			
		周産期ハイリスク実習	2前	1		1		1	1			
小計(21科目)			46		2		1	1			15	
合計(43科目)			4	98	0	9	4	6	2		29	

卒業要件及び履修方法

所定の在学年限を満たし、以下の所定単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、研究論文についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。

(1)看護管理学 30単位

- ①共通科目14単位【看護研究2単位、看護倫理2単位は必修、そのほか共通科目から10単位】
- ②専門科目16単位【看護管理学特論Ⅰ(看護管理論)、看護管理学特論Ⅱ(看護組織論)、看護管理学特論Ⅲ(人材育成と活用)、看護管理学特論Ⅳ(安全管理学)の中から6単位、看護管理学演習2単位、看護管理学特別研究8単位】

(2)実践看護学 30単位

- ①共通科目14単位【看護研究2単位、看護倫理2単位は必修、そのほか共通科目から10単位】
- ②専門科目16単位【実践看護学特論Ⅰ(成人看護)、実践看護学特論Ⅱ(精神保健看護)、実践看護学特論Ⅲ(小児看護)、実践看護学特論Ⅳ(在宅看護)、看護管理学特論Ⅳ(安全管理学)の中から6単位、実践看護学演習2単位、実践看護学特別研究8単位】

(3)ウイメンズヘルス・助産学(助産師有資格者) 30単位

- ①共通科目14単位【看護研究2単位、看護倫理2単位は必修、そのほか共通科目から10単位】
- ②専門科目16単位【ウイメンズヘルス特論、周産期ケア特論、助産マネジメント特論、ウイメンズヘルス特論演習の8単位、ウイメンズヘルス・助産学特別研究8単位】

ウイメンズヘルス・助産学(助産師無資格者) 60単位

- ①共通科目14単位【看護研究2単位、看護倫理2単位は必修、そのほか共通科目から10単位】
- ②専門科目46単位

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
共通科目群	共通科目	看護理論	1前	2		1					
		看護研究	1前	2		1	1				
		コンサルテーション論	1後	2		1					
		看護教育論	1後	2		1					2
		看護倫理	1前	2		4		2			
		医療人間学	1後	2		1					
		医療統計学	1後	2							1
		フィジカルアセスメント	1後	2		3	1				
		病態生理学	1前	2		1					9
		ケアシステム論	1後	2		6	1	1			
小計(10科目)		-	4	16	0	10	4	3		12	
専門科目群	看護管理学	看護管理学特論Ⅰ(看護管理論)	1前	2		1	2				
		看護管理学特論Ⅱ(看護組織論)	1後	2		2	1				
		看護管理学特論Ⅲ(人材育成と活用)	1後	2		1	1	2			
		看護管理学特論Ⅳ(安全管理学)	1後	2		1	2				
		看護管理学演習	2前	2		2	2				
		看護管理学特別研究	1後-2後	8		2	2				
	小計(6科目)		-	0	18	0	2	2	2		
	実践看護学	実践看護学特論Ⅰ(成人看護)	1前	2		2		1			1
		実践看護学特論Ⅱ(精神保健看護)	1前	2		2		1			1
		実践看護学特論Ⅲ(小児看護)	1前	2		2					
実践看護学特論Ⅳ(在宅看護)		1前	2		1	1				3	
実践看護学演習		1後	2		6	2	3			2	
実践看護学特別研究		1後-2後	8		7	1	1				
小計(6科目)		-	0	18	0	7	2	3		6	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目群	ウイメンズヘルズ・助産学	ウイメンズヘルズ特論	1前	2		2						2
		周産期ケア特論	1・2後	2								5
		助産マネジメント特論	1・2前	2		1						2
		ウイメンズヘルズ特論演習	1後	2		1		1	1			2
		ウイメンズヘルズ・助産学特別研究	1後・2後	8		2						
		助産学概論	1前	2		2						
		助産学展開論	1後	2		2						
		ウイメンズヘルズ教育論	1前			1		1				
		周産期診断治療論	1後	2								6
		助産診断・技術論Ⅰ(妊婦・産婦の助産ケア)	1前	2		1		1				
		助産診断・技術論Ⅱ(neonatal 新生児の助産ケア)	1前	2		1		1				
		助産診断・技術演習	1前	2		1		1	1			
		地域母子保健論	2前	1		2						
		助産管理論	2前	2		1						2
		地域助産実習	2前	1		1		1				
		助産管理実習	2前	1		2		1	1			
		助産学実習Ⅰ	1後	2		2		1	1			
		助産学実習Ⅱ	1後	4		2		1	1			
		助産学実習Ⅲ	1後	2		2		1	1			
		継続事例実習	1後・2前	2		2		1	1			
		周産期ハイリスク実習	2前	1		1		1	1			
小計(21科目)			44		2		1	1			15	
合計(43科目)		-	4	98	0	11	3	6	2		33	

卒業要件及び履修方法

所定の在学年限を満たし、以下の所定単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、研究論文についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。

(1)看護管理学 30単位

- ①共通科目14単位【看護研究2単位、看護倫理2単位は必修、そのほか共通科目から10単位】
- ②専門科目16単位【看護管理学特論Ⅰ(看護管理論)、看護管理学特論Ⅱ(看護組織論)、看護管理学特論Ⅲ(人材育成と活用)、看護管理学特論Ⅳ(安全管理学)の中から6単位、看護管理学演習2単位、看護管理学特別研究8単位】

(2)実践看護学 30単位

- ①共通科目14単位【看護研究2単位、看護倫理2単位は必修、そのほか共通科目から10単位】
- ②専門科目16単位【実践看護学特論Ⅰ(成人看護)、実践看護学特論Ⅱ(精神保健看護)、実践看護学特論Ⅲ(小児看護)、実践看護学特論Ⅳ(在宅看護)、看護管理学特論Ⅳ(安全管理学)の中から6単位、実践看護学演習2単位、実践看護学特別研究8単位】

(3)ウイメンズヘルズ・助産学(助産師有資格者) 30単位

- ①共通科目14単位【看護研究2単位、看護倫理2単位は必修、そのほか共通科目から10単位】
- ②専門科目16単位【ウイメンズヘルズ特論、周産期ケア特論、助産マネジメント特論、ウイメンズヘルズ特論演習の8単位、ウイメンズヘルズ・助産学特別研究8単位】

ウイメンズヘルズ・助産学(助産師無資格者) 60単位

- ①共通科目14単位【看護研究2単位、看護倫理2単位は必修、そのほか共通科目から10単位】
- ②専門科目46単位

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。
 - (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「【臨地実務実習】」による授業科目には「【臨】」、「【連携実務演習】」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

・教員の辞職の理由により、「実践看護学演習」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教1」に変更。

【令和2年度】

・准教授1名の辞職、兼任・兼任教員1名の採用の理由により、「病態生理学」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。「兼任0」から「兼任1」に変更。
 ・教授2名の採用、教授1名の辞職の理由により、「ケアシステム論」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授6」に変更。
 ・教授1名の採用の理由により、「実践看護学特論Ⅱ（精神保健看護）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更。
 ・教授3名の採用、教授1名の辞職、教授1名の変更の理由により、「実践看護学演習」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授6」に変更。
 ・助教1名の辞職の理由により、「実践看護学演習」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。「兼任0」から「兼任2」に変更。
 ・教授3名の採用、教授1名の辞職の理由により、「実践看護学特別研究」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授7」に変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
2 科目	41 科目	0 科目	43 科目	2 科目 [0]	41 科目 [0]	0 科目 [0]	43 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{43} = \boxed{0\%}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考						
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	亀田医療大学 借用面積：20,147.68㎡ 借用期間：22年 亀田医療技術専門学校 2629.34㎡						
	校舎敷地	0.00㎡	4876.71㎡	11118.9㎡	155995.61㎡							
	運動場用地	0.00㎡	4114.82㎡	0.00㎡	4114.82㎡							
	小 計	0.00㎡	8991.53㎡	11118.9㎡	20110.43㎡							
	そ の 他	0.00㎡	0.00㎡	6210.59㎡	6210.59㎡							
	合 計	0.00㎡	8991.53㎡	17329.49㎡	26321.02㎡							
(2) 校舎	専 用	352.51㎡	4085.45㎡	11270.35㎡	15708.31㎡	亀田医療大学実験室棟 棟内面積→351.40㎡ 借用期間→11年平成31年2月鴨川市より無償譲渡(2) 亀田医療技術専門学校1号館 2,670.26㎡						
	(352.51㎡)	(4085.45㎡)	(11270.35㎡)	(15708.31㎡)								
(3) 教室等	講義室	17室	演習室	19室	実験実習室	10室	情報処理学習施設	4室	語学学習施設	1室	亀田医療大学及び亀田医療技術専門学校全体 (補助職員 1人) (補助職員 1人)	
	(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数						
		看護学研究科看護学専攻			29 室							
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	大学全体での共用分を含む 図書 20,662冊 [1,329] 20,698冊 [1,316] 学術雑誌 154 [15] 148 [16] 電子ジャーナル 2,143 [763] 2,062 [782] 視聴覚資料 484 517				
		[うち外国書]	[うち外国書]									[うち外国書]
	冊	種	点	点	点							
	亀田医療大学 大学院	21,077[1,347] 20,662[1,329] 20,698[1,316] (19,735[1,342]) (18,082[1,319]) (18,026[1,306])	163[15] 154[16] 148[16] (159[15]) (154[16]) (148[15])	2,000[578] 2,143[763] 2,062[782] (2,000[578]) (2,143[763]) (2,062[782])	463 484 517 (453) (444) (457)	568 (310)	— (—)					
計	21,077[1,347] 20,662[1,329] 20,698[1,316] (19,735[1,342]) (18,082[1,319]) (18,026[1,306])	163[15] 154[16] 148[16] (159[15]) (154[16]) (148[15])	2,000[578] 2,143[763] 2,062[782] (2,000[578]) (2,143[763]) (2,062[782])	463 484 517 (453) (444) (457)	568 (310)	— (—)						
(6) 図書館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体						
	748.70㎡	70		21540								
(7) 体育館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体						
	1,385㎡	武 道 館 648.00㎡										
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	申請研究科全体 研究科単位での算出不能のため、学部との合計 研究費等は翌年分の繰越金額を含めたため増(元) 研究費等は教員数が増えたため増(2) 施設購入費は値引きのため減(元) 図書購入費は電子ジャーナル価格引きのため減(2)			
		教員1人当り研究費等	544千円 372千円	560千円 544千円 372千円	図書購入費	1,000千円	528千円 533千円	0千円				
		共同研究費等	— 千円	— 千円	設備購入費	24,350千円 25,554千円	0千円	0千円				
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル、データベース、その他の経費(運用コスト含む)を含む				
		1,500千円	1,200千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円					
学生納付金以外の維持方法の概要		寄付金、補助金等による										

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	亀田医療大学										備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度		
看護学研究科	2	10	-	20	-	1.15	1	平成31	-		
看護学専攻	2	10	-	20	修士 (看護学)	1.15	1	平成31		千葉県鎌川市横渚462	
看護学部	4	80	-	320	-	1.02	1.01	平成24	-		
看護学科	4	80	-	320	学士 (看護学)	1.02	1.01	平成24		千葉県鎌川市横渚462	
大学全体	-	90	-	340	-	1.02	1.01	-	-		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学研究科 看護学専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	橋本裕二 (68) <平成31年4月> 医学博士
		病態生理学 実践看護学特論Ⅰ(成人看護) 実践看護学特別研究
専	教授	恵美須 文枝 (73) <平成31年4月> 博士(医学)
		看護教育論 看護倫理 ケアシステム論 実践看護学特論Ⅲ(小児看護) 実践看護学演習 ウイメンズヘルスト論 助産マネジメント特論 ウイメンズヘルスト論演習 ウイメンズヘルス・助産学特別研究 助産学概論 助産学展開論 地域母子保健論 助産管理実習 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ 助産学実習Ⅲ 継続事例実習
専	教授	宮本眞巳 (71) <平成31年4月> 保健学博士
		コンサルテーション論 ケアシステム論 実践看護学特論Ⅱ(精神保健看護) 実践看護学演習 実践看護学特別研究

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	橋本裕二 (68) <平成31年4月> 医学博士
		病態生理学 実践看護学特論Ⅰ(成人看護) 実践看護学特別研究
専	教授	恵美須 文枝 (73) <平成31年4月> 博士(医学)
		看護教育論 看護倫理 ケアシステム論 実践看護学特論Ⅲ(小児看護) 実践看護学演習 ウイメンズヘルスト論 助産マネジメント特論 ウイメンズヘルスト論演習 ウイメンズヘルス・助産学特別研究 助産学概論 助産学展開論 地域母子保健論 助産管理実習 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ 助産学実習Ⅲ 継続事例実習
専	教授	宮本眞巳 (71) <平成31年4月> 保健学博士
		コンサルテーション論 ケアシステム論 実践看護学特論Ⅱ(精神保健看護) 実践看護学演習 実践看護学特別研究

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	橋本裕二 (69) <平成31年4月> 医学博士
		病態生理学 実践看護学特論Ⅰ(成人看護) 実践看護学特別研究
専	教授	恵美須 文枝 (74) <平成31年4月> 博士(医学)
		看護教育論 看護倫理 ケアシステム論 実践看護学特論Ⅲ(小児看護) ウイメンズヘルスト論 助産マネジメント特論 ウイメンズヘルスト論演習 ウイメンズヘルス・助産学特別研究 助産学概論 助産学展開論 地域母子保健論 助産管理実習 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ 助産学実習Ⅲ 継続事例実習
専	教授	宮本眞巳 (72) <平成31年4月> 保健学博士
		コンサルテーション論 ケアシステム論 実践看護学特論Ⅱ(精神保健看護) 実践看護学演習 実践看護学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	新田 静江 (71) <平成31年4月> DOCTOR OF PHILOSOPHY (博士(看護学))
		看護研究 フィジカルアセスメント ケアシステム論 実践看護学特論Ⅳ(在宅看護) 実践看護学演習 実践看護学特別研究
専	教授	松尾 ミヨ子 (68) <平成31年4月> 博士(看護学)
		看護倫理 フィジカルアセスメント ケアシステム論 実践看護学特論Ⅰ(成人看護) 実践看護学演習 実践看護学特別研究
専	教授	吉川 一枝 (67) <平成31年4月> 修士(リハビリテーション)
		看護倫理 ケアシステム論 実践看護学特論Ⅲ(小児看護) 実践看護学演習 実践看護学特別研究
専	教授	大野 知代 (66) <平成31年4月> 博士(人間科学)
		フィジカルアセスメント ウイメンズヘルステ論 ウイメンズヘルス・助産学特別 研究 助産学概論 助産学展開論 ウイメンズヘルス教育論 助産診断・技術論Ⅰ(妊婦・産 婦の助産ケア) 助産診断・技術論Ⅱ(褥婦と新 生児の助産ケア) 助産診断・技術演習 地域母子保健論 助産管理論 地域助産実習 助産管理実習 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ 助産学実習Ⅲ 継続事例実習 周産期ハイリスク実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	新田 静江 (71) <平成31年4月> DOCTOR OF PHILOSOPHY (博士(看護学))
		看護研究 フィジカルアセスメント ケアシステム論 実践看護学特論Ⅳ(在宅看護) 実践看護学演習 実践看護学特別研究
専	教授	松尾 ミヨ子 (68) <平成31年4月> 博士(看護学)
		看護倫理 フィジカルアセスメント ケアシステム論 実践看護学特論Ⅰ(成人看護) 実践看護学演習 実践看護学特別研究
専	教授	吉川 一枝 (67) <平成31年4月> 修士(リハビリテーション)
		看護倫理 ケアシステム論 実践看護学特論Ⅲ(小児看護) 実践看護学演習 実践看護学特別研究
専	教授	大野 知代 (66) <平成31年4月> 博士(人間科学)
		フィジカルアセスメント ウイメンズヘルステ論 ウイメンズヘルス・助産学特別 研究 助産学概論 助産学展開論 ウイメンズヘルス教育論 助産診断・技術論Ⅰ(妊 婦・産婦の助産ケア) 助産診断・技術論Ⅱ(褥婦 と新生児の助産ケア) 助産診断・技術演習 地域母子保健論 助産管理論 地域助産実習 助産管理実習 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ 助産学実習Ⅲ 継続事例実習 周産期ハイリスク実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	新田 静江 (72) <平成31年4月> DOCTOR OF PHILOSOPHY (博士(看護学))
		看護研究 フィジカルアセスメント ケアシステム論 実践看護学特論Ⅳ(在宅看護) 実践看護学演習 実践看護学特別研究
専	教授	
専	教授	吉川 一枝 (68) <平成31年4月> 修士(リハビリテーション)
		看護倫理 ケアシステム論 実践看護学特論Ⅲ(小児看護) 実践看護学演習 実践看護学特別研究
専	教授	大野 知代 (67) <平成31年4月> 博士(人間科学)
		フィジカルアセスメント ウイメンズヘルステ論 ウイメンズヘルス・助産学特別 研究 助産学概論 助産学展開論 ウイメンズヘルス教育論 助産診断・技術論Ⅰ(妊 婦・産婦の助産ケア) 助産診断・技術論Ⅱ(褥婦 と新生児の助産ケア) 助産診断・技術演習 地域母子保健論 助産管理論 地域助産実習 助産管理実習 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ 助産学実習Ⅲ 継続事例実習 周産期ハイリスク実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	休波 茂子 (65) <平成31年4月> 博士(健康科学)
		看護理論 看護管理学特論Ⅰ(看護管理論) 看護管理学特論Ⅱ(看護組織論) 看護管理学特論Ⅲ(人材育成と活用) 看護管理学特論Ⅳ(安全管理学) 看護管理学演習 看護管理学特別研究
専	教授	足立 智孝 (51) <平成31年4月> Doctor of Medical Humanities (博士(医療人文学))
		看護倫理 医療人間学 看護管理学特論Ⅱ(看護組織論) 看護管理学演習 看護管理学特別研究
専	准教授	関永 信子 (67) <平成31年4月> 修士(アドミニストレーション)
		ケアシステム論 実践看護学特論Ⅳ(在宅看護) 実践看護学演習 実践看護学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	休波 茂子 (65) <平成31年4月> 博士(健康科学)
		看護理論 看護管理学特論Ⅰ(看護管理論) 看護管理学特論Ⅱ(看護組織論) 看護管理学特論Ⅲ(人材育成と活用) 看護管理学特論Ⅳ(安全管理学) 看護管理学演習 看護管理学特別研究
専	教授	足立 智孝 (51) <平成31年4月> Doctor of Medical Humanities (博士(医療人文学))
		看護倫理 医療人間学 看護管理学特論Ⅱ(看護組織論) 看護管理学演習 看護管理学特別研究
専	准教授	関永 信子 (67) <平成31年4月> 修士(アドミニストレーション)
		ケアシステム論 実践看護学特論Ⅳ(在宅看護) 実践看護学演習 実践看護学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	休波 茂子 (66) <平成31年4月> 博士(健康科学)
		看護理論 看護管理学特論Ⅰ(看護管理論) 看護管理学特論Ⅱ(看護組織論) 看護管理学特論Ⅲ(人材育成と活用) 看護管理学特論Ⅳ(安全管理学) 看護管理学演習 看護管理学特別研究
専	教授	足立 智孝 (52) <平成31年4月> Doctor of Medical Humanities (博士(医療人文学))
		看護倫理 医療人間学 看護管理学特論Ⅱ(看護組織論) 看護管理学演習 看護管理学特別研究
専	教授	工藤 節美 (60) <令和元年10月> 博士(学術)
		ケアシステム論 実践看護学演習 実践看護学特別研究
専	教授	田中 美恵子 (65) <令和2年4月> 博士(看護学)
		実践看護学特論Ⅱ(精神保健看護) 実践看護学演習 実践看護学特別研究
専	教授	岡本 明美 (57) <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護倫理 フィジカルアセスメント ケアシステム論 実践看護学特論Ⅰ(成人看護) 実践看護学演習 実践看護学特別研究
専	准教授	関永 信子 (68) <平成31年4月> 修士(アドミニストレーション)
		ケアシステム論 実践看護学特論Ⅳ(在宅看護) 実践看護学演習 実践看護学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	渡邊 八重子 (57) <平成31年4月> 博士(工学)
		フィジカルアセスメント 看護管理学特論Ⅰ(看護管理論) 看護管理学特論Ⅱ(看護組織論) 看護管理学特論Ⅲ(人材育成と活用) 看護管理学特論Ⅳ(安全管理学) 看護管理学演習 看護管理学特別研究
専	准教授	大石 昌也 (56) <平成31年4月> 博士(医学)
		病態生理学
専	准教授	栗栖 千幸 (52) <平成31年4月> 博士(商学)
		看護研究 看護管理学特論Ⅰ(看護管理論) 看護管理学特論Ⅳ(安全管理学) 看護管理学演習 看護管理学特別研究 実践看護学演習
専	講師	青山(原)美紀子 (59) <平成31年4月> 修士(看護学)
		看護倫理 実践看護学特論Ⅰ(成人看護) 実践看護学演習
専	講師	鵜沢 淳子 (56) <平成31年4月> 修士(心身健康科学)
		看護管理学特論Ⅲ(人材育成と活用)
専	講師	有家 香 (56) <平成31年4月> 修士(看護学)
		看護管理学特論Ⅲ(人材育成と活用)
専	講師	中島 洋一 (51) <平成31年4月> 修士(人間学)
		看護倫理 実践看護学特論Ⅱ(精神保健看護) 実践看護学演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	渡邊 八重子 (57) <平成31年4月> 博士(工学)
		フィジカルアセスメント 看護管理学特論Ⅰ(看護管理論) 看護管理学特論Ⅱ(看護組織論) 看護管理学特論Ⅲ(人材育成と活用) 看護管理学特論Ⅳ(安全管理学) 看護管理学演習 看護管理学特別研究
専	准教授	大石 昌也 (56) <平成31年4月> 博士(医学)
		病態生理学
専	准教授	栗栖 千幸 (52) <平成31年4月> 博士(商学)
		看護研究 看護管理学特論Ⅰ(看護管理論) 看護管理学特論Ⅳ(安全管理学) 看護管理学演習 看護管理学特別研究 実践看護学演習
専	講師	青山(原)美紀子 (59) <平成31年4月> 修士(看護学)
		看護倫理 実践看護学特論Ⅰ(成人看護) 実践看護学演習
専	講師	鵜沢 淳子 (56) <平成31年4月> 修士(心身健康科学)
		看護管理学特論Ⅲ(人材育成と活用)
専	講師	有家 香 (56) <平成31年4月> 修士(看護学)
		看護管理学特論Ⅲ(人材育成と活用)
専	講師	中島 洋一 (51) <平成31年4月> 修士(人間学)
		看護倫理 実践看護学特論Ⅱ(精神保健看護) 実践看護学演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	渡邊 八重子 (58) <平成31年4月> 博士(工学)
		フィジカルアセスメント 看護管理学特論Ⅰ(看護管理論) 看護管理学特論Ⅱ(看護組織論) 看護管理学特論Ⅲ(人材育成と活用) 看護管理学特論Ⅳ(安全管理学) 看護管理学演習 看護管理学特別研究
専	准教授	
専	准教授	栗栖 千幸 (53) <平成31年4月> 博士(商学)
		看護研究 看護管理学特論Ⅰ(看護管理論) 看護管理学特論Ⅳ(安全管理学) 看護管理学演習 看護管理学特別研究 実践看護学演習
専	講師	青山(原)美紀子 (60) <平成31年4月> 修士(看護学)
		看護倫理 実践看護学特論Ⅰ(成人看護) 実践看護学演習
専	講師	鵜沢 淳子 (57) <平成31年4月> 修士(心身健康科学)
		看護管理学特論Ⅲ(人材育成と活用)
専	講師	有家 香 (57) <平成31年4月> 修士(看護学)
		看護管理学特論Ⅲ(人材育成と活用)
専	講師	中島 洋一 (52) <平成31年4月> 修士(人間学)
		看護倫理 実践看護学特論Ⅱ(精神保健看護) 実践看護学演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	講師	川上 裕子 (48) <平成31年4月> 修士(学術)	専	講師	川上 裕子 (48) <平成31年4月> 修士(学術)	専	講師	川上 裕子 (49) <平成31年4月> 修士(学術)
		ケアシステム論 実践看護学演習 実践看護学特別研究			ケアシステム論 実践看護学演習 実践看護学特別研究			ケアシステム論 実践看護学演習 実践看護学特別研究
専	講師	下 睦子 (48) <平成31年4月> 修士(看護学)	専	講師	下 睦子 (48) <平成31年4月> 修士(看護学)	専	講師	下 睦子 (49) <平成31年4月> 修士(看護学)
		ウィメンズヘルス特論演習 ウィメンズヘルス教育論 助産診断・技術論Ⅰ(妊婦・産婦の助産ケア) 助産診断・技術論Ⅱ(褥婦と新生児の助産ケア) 助産診断・技術演習 地域助産実習 助産管理実習 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ 助産学実習Ⅲ 継続事例実習 周産期ハイリスク実習			ウィメンズヘルス特論演習 ウィメンズヘルス教育論 助産診断・技術論Ⅰ(妊婦・産婦の助産ケア) 助産診断・技術論Ⅱ(褥婦と新生児の助産ケア) 助産診断・技術演習 地域助産実習 助産管理実習 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ 助産学実習Ⅲ 継続事例実習 周産期ハイリスク実習			ウィメンズヘルス特論演習 ウィメンズヘルス教育論 助産診断・技術論Ⅰ(妊婦・産婦の助産ケア) 助産診断・技術論Ⅱ(褥婦と新生児の助産ケア) 助産診断・技術演習 地域助産実習 助産管理実習 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ 助産学実習Ⅲ 継続事例実習 周産期ハイリスク実習
専	助教	兼子(川名)裕美 (47) <平成31年4月> 修士(看護学)						
		実践看護学演習						
専	助教	岩谷 香 (47) <平成31年4月> 修士(看護学)	専	助教	岩谷 香 (47) <平成31年4月> 修士(看護学)	専	助教	岩谷 香 (48) <平成31年4月> 修士(看護学)
		ウィメンズヘルス特論演習 助産診断・技術演習 助産管理実習 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ 助産学実習Ⅲ 継続事例実習 周産期ハイリスク実習			ウィメンズヘルス特論演習 助産診断・技術演習 助産管理実習 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ 助産学実習Ⅲ 継続事例実習 周産期ハイリスク実習			ウィメンズヘルス特論演習 助産診断・技術演習 助産管理実習 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ 助産学実習Ⅲ 継続事例実習 周産期ハイリスク実習
専	助教	櫻井 一江 (45) <平成31年4月> 修士(看護学)	専	助教	櫻井 一江 (45) <平成31年4月> 修士(看護学)			
		実践看護学演習			実践看護学演習			
兼任	講師	村中 陽子 (67) <平成31年4月> 博士(ソフトウェア情報学)	兼任	講師	村中 陽子 (67) <平成31年4月> 博士(ソフトウェア情報学)	兼任	講師	村中 陽子 (68) <平成31年4月> 博士(ソフトウェア情報学)
		看護教育論			看護教育論			看護教育論
兼任	講師	吉田 広美 (52) <平成31年4月> 修士(人間学)	兼任	講師	吉田 広美 (52) <平成31年4月> 修士(人間学)			
		看護教育論 助産マネジメント特論 助産管理論			看護教育論 助産マネジメント特論 助産管理論			

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	松居 宏樹 (36) <平成31年4月> 修士(公衆衛生学)
		医療統計学
兼任	講師	榎澤 政広 (53) <平成31年4月> 博士(医学)
		病態生理学
兼任	講師	竹内 正美 (62) <平成31年4月> 学士(医学)
		病態生理学
兼任	講師	福武 敏夫 (72) <平成31年4月> 医学博士
		病態生理学
兼任	講師	細川 直登 (53) <平成31年4月> 医学博士
		病態生理学
兼任	講師	本島 新司 (67) <平成31年4月> 医学博士
		病態生理学
兼任	講師	大山 優 (52) <平成31年4月> 医学士
		病態生理学
兼任	講師	関根 龍一 (48) <平成31年4月> 学士(医学)
		病態生理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	松居 宏樹 (36) <平成31年4月> 修士(公衆衛生学)
		医療統計学
兼任	講師	榎澤 政広 (53) <平成31年4月> 博士(医学)
		病態生理学
兼任	講師	竹内 正美 (62) <平成31年4月> 学士(医学)
		病態生理学
兼任	講師	福武 敏夫 (72) <平成31年4月> 医学博士
		病態生理学
兼任	講師	細川 直登 (53) <平成31年4月> 医学博士
		病態生理学
兼任	講師	本島 新司 (67) <平成31年4月> 医学博士
		病態生理学
兼任	講師	大山 優 (52) <平成31年4月> 医学士
		病態生理学
兼任	講師	関根 龍一 (48) <平成31年4月> 学士(医学)
		病態生理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	藤田 倭子 (51) <令和元年10月> 修士(保健医療学)
		看護教育論
兼任	講師	柳村 直子 (49) <令和2年4月> 博士(看護学)
		助産マネジメント特論 助産管理論
兼任	講師	松居 宏樹 (37) <平成31年4月> 修士(公衆衛生学)
		医療統計学
兼任	講師	榎澤 政広 (54) <平成31年4月> 博士(医学)
		病態生理学
兼任	講師	竹内 正美 (63) <平成31年4月> 学士(医学)
		病態生理学
兼任	講師	福武 敏夫 (73) <平成31年4月> 医学博士
		病態生理学
兼任	講師	細川 直登 (54) <平成31年4月> 医学博士
		病態生理学
兼任	講師	本島 新司 (68) <平成31年4月> 医学博士
		病態生理学
兼任	講師	大山 優 (53) <平成31年4月> 医学士
		病態生理学
兼任	講師	関根 龍一 (49) <平成31年4月> 学士(医学)
		病態生理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	小原 まみ子 (56) <平成31年4月> 医学博士
		病態生理学
兼任	講師	治徳 大介 (42) <平成31年4月> 博士(医学)
		実践看護学特論Ⅱ(精神保健看護)
兼任	講師	佐々木 真弓 (51) <平成31年4月> 専門学校卒
		実践看護学特論Ⅳ(在宅看護)
兼任	講師	吉野 有美子 (52) <平成31年4月> 専門学校卒
		実践看護学特論Ⅳ(在宅看護)
兼任	講師	川名 延江 (69) <平成31年4月> 高等看護学院卒
		実践看護学特論Ⅳ(在宅看護)
兼任	講師	毛利 多恵子 (61) <平成31年4月> 修士(看護学)
		ウィメンズヘルス特論
兼任	講師	野本 千恵 (55) <平成31年4月> 医学士
		ウィメンズヘルス特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	小原 まみ子 (56) <平成31年4月> 医学博士
		病態生理学
兼任	講師	治徳 大介 (42) <平成31年4月> 博士(医学)
		実践看護学特論Ⅱ(精神保健看護)
兼任	講師	佐々木 真弓 (51) <平成31年4月> 専門学校卒
		実践看護学特論Ⅳ(在宅看護)
兼任	講師	吉野 有美子 (52) <平成31年4月> 専門学校卒
		実践看護学特論Ⅳ(在宅看護)
兼任	講師	川名 延江 (69) <平成31年4月> 高等看護学院卒
		実践看護学特論Ⅳ(在宅看護)
兼任	講師	毛利 多恵子 (61) <平成31年4月> 修士(看護学)
		ウィメンズヘルス特論
兼任	講師	野本 千恵 (55) <平成31年4月> 医学士
		ウィメンズヘルス特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	小原 まみ子 (57) <平成31年4月> 医学博士
		病態生理学
兼任	講師	大石 昌也 (57) <平成31年4月> 博士(医学)
		病態生理学
兼任	講師	河 正子 (67) <令和元年4月> 博士(保健学)
		実践看護学特論Ⅰ(成人看護) 実践看護学演習
兼任	講師	治徳 大介 (43) <平成31年4月> 博士(医学)
		実践看護学特論Ⅱ(精神保健看護)
兼任	講師	佐々木 真弓 (52) <平成31年4月> 専門学校卒
		実践看護学特論Ⅳ(在宅看護)
兼任	講師	吉野 有美子 (53) <平成31年4月> 専門学校卒
		実践看護学特論Ⅳ(在宅看護)
兼任	講師	川名 延江 (70) <平成31年4月> 高等看護学院卒
		実践看護学特論Ⅳ(在宅看護)
兼任	講師	飯塚 裕美 (47) <令和2年10月> 修士(総合保健看護学)
		実践看護学演習
兼任	講師	毛利 多恵子 (62) <平成31年4月> 修士(看護学)
		ウィメンズヘルス特論
兼任	講師	野本 千恵 (56) <平成31年4月> 医学士
		ウィメンズヘルス特論

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	鈴木 真 (56) ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		周産期ケア特論 周産期診断治療論
兼任	講師	佐藤 弘之 (57) ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		周産期ケア特論 周産期診断治療論
兼任	講師	田嶋 敦 (49) ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		周産期ケア特論 周産期診断治療論
兼任	講師	林 正路 (57) ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		周産期ケア特論
兼任	講師	清水 清美 (56) ＜平成31年4月＞ 博士(看護学)
		周産期ケア特論
兼任	講師	宮下 美代子 (65) ＜平成31年4月＞ 修士(助産学)
		助産マネジメント特論
兼任	講師	神谷 整子 (68) ＜平成31年4月＞ 専門学校卒
		ウィメンズヘルス特論演習
兼任	講師	矢島 床子 (73) ＜平成31年4月＞ 専門学校卒
		ウィメンズヘルス特論演習
兼任	講師	古澤 嘉明 (50) ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		周産期診断治療論

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	鈴木 真 (56) ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		周産期ケア特論 周産期診断治療論
兼任	講師	佐藤 弘之 (57) ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		周産期ケア特論 周産期診断治療論
兼任	講師	田嶋 敦 (50) ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		周産期ケア特論 周産期診断治療論
兼任	講師	林 正路 (57) ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		周産期ケア特論
兼任	講師	清水 清美 (56) ＜平成31年4月＞ 博士(看護学)
		周産期ケア特論
兼任	講師	宮下 美代子 (65) ＜平成31年4月＞ 修士(助産学)
		助産マネジメント特論
兼任	講師	神谷 整子 (68) ＜平成31年4月＞ 専門学校卒
		ウィメンズヘルス特論演習
兼任	講師	矢島 床子 (74) ＜平成31年4月＞ 専門学校卒
		ウィメンズヘルス特論演習
兼任	講師	古澤 嘉明 (50) ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		周産期診断治療論

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	鈴木 真 (57) ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		周産期ケア特論 周産期診断治療論
兼任	講師	佐藤 弘之 (58) ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		周産期ケア特論 周産期診断治療論
兼任	講師	田嶋 敦 (51) ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		周産期ケア特論 周産期診断治療論
兼任	講師	林 正路 (58) ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		周産期ケア特論
兼任	講師	清水 清美 (57) ＜平成31年4月＞ 博士(看護学)
		周産期ケア特論
兼任	講師	宮下 美代子 (66) ＜平成31年4月＞ 修士(助産学)
		助産マネジメント特論
兼任	講師	神谷 整子 (69) ＜平成31年4月＞ 専門学校卒
		ウィメンズヘルス特論演習
兼任	講師	矢島 床子 (75) ＜平成31年4月＞ 専門学校卒
		ウィメンズヘルス特論演習
兼任	講師	古澤 嘉明 (51) ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		周産期診断治療論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	清水 幸子 (61) <平成31年4月> 医学博士
		周産期診断治療論
兼任	講師	門岡 みずほ (36) <平成31年4月> 学士(医学)
		周産期診断治療論
兼任	講師	武田 智子 (66) <平成32年4月> 準学士(看護学)
		助産管理論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	清水 幸子 (61) <平成31年4月> 医学博士
		周産期診断治療論
兼任	講師	門岡 みずほ (36) <平成31年4月> 学士(医学)
		周産期診断治療論
兼任	講師	武田 智子 (66) <平成32年4月> 準学士(看護学)
		助産管理論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	清水 幸子 (62) <平成31年4月> 医学博士
		周産期診断治療論
兼任	講師	門岡 みずほ (37) <平成31年4月> 学士(医学)
		周産期診断治療論
兼任	講師	武田 智子 (67) <平成32年4月> 準学士(看護学)
		助産管理論

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は本字の赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・専任の兼子（川名）裕美助教、平成31年3月31日付で退職。後任の専任教員については、令和元年7月の教員審査で受審予定。
- ・兼任の千葉恵子講師は平成31年4月1日付で専任教員に採用したため、後任の兼任講師については、令和元年5月下旬に就任予定。

【令和2年度】

- ・専任の兼子（川名）裕美助教が平成31年3月31日付で退職。後任の専任教員については、令和元年7月の教員審査で受審したが不可となったため兼任の飯塚裕美講師を採用。
- ・兼任の千葉恵子講師が平成31年4月1日付で専任教員に採用したため、後任の兼任講師については、兼任の河正子講師を採用。
- ・兼任の吉田広美講師が辞任したため、後任として兼任の柳村直子講師・藤田淑子講師を採用。
- ・専任の櫻井一江助教が令和元年9月30日付で退職。後任は、兼任の河正子講師を採用。
- ・令和元年10月工藤節美教授就任。令和元年7月AC教員審査済み。
- ・令和2年4月中美恵子教授就任。令和2年1月AC教員審査済み。
- ・専任の松尾ミヨ子教授が令和2年3月31日付で退職。後任として令和2年4月岡本明美教授就任。令和2年1月AC教員審査済み。
- ・専任の大石昌也准教授が令和2年3月31日付で退職。後任として兼任の大石昌也講師を採用。

- (注)
- ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を相当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
6	6	6
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
9	4	6	3	22	0	11	3	6	1	21	0
(9)	(4)	(6)	(2)	(21)	0						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
8	5	9				9	6	6			
(8)	(5)	(8)				(9)	(6)	(6)			
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
11	3	6	1	21	0	11	3	6	1	21	0
[2]	[Δ1]	[-]	[Δ2]	[Δ1]	[-]	[2]	[Δ1]	[-]	[Δ2]	[Δ1]	[-]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
9	6	6				9	6	6			
[1]	[1]	[Δ3]				[1]	[1]	[Δ3]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
75	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{21}{22} = \boxed{95.45} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{21} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由				
1	助教	兼子（川名）裕美	H31.3	選択	実践看護学演習	④②	H31.3退職のため就任辞退（元）				
合計（D）					後任補充状況の集計（E）						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）				
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	
		選択	1	科目	選択	0	科目	選択	1	科目	
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	1	科目	計	0	科目	計	1	科目	計

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
1	助教	櫻井 一江	R1.9	選択	実践看護学実習	②	R1.9.30付け退職のため辞任（2）				
2	教授	松尾 ミヨ子	R2.3	必修	看護倫理	①	R2.3.31付け退職のため辞任（2）				
				選択	フィジカルアセスメント	①					
				選択	ケアシステム論	①					
				選択	実践看護学特論Ⅰ（成人看護）	①					
				選択	実践看護学実習	①					
2	准教授	大石 昌也	R2.3	選択	実践看護学特別研究	①	R2.3.31付け退職のため辞任（2）				
2	准教授	大石 昌也	R2.3	選択	病態生理学	②					
合計（F）					後任補充状況の集計（G）						
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）				
3	人	必修	1	科目	必修	1	科目	必修	0	科目	
		選択	7	科目	選択	5	科目	選択	2	科目	
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	8	科目	計	6	科目	計	2	科目	計

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計（D）+（F）					後任補充状況の集計（E）+（G）						
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）				
4	人	必修	1	科目	必修	1	科目	必修	0	科目	
		選択	8	科目	選択	5	科目	選択	3	科目	
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	9	科目	計	6	科目	計	3	科目	計

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{4}{22} = 18.18 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼任教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

退職した助教2名について、1名の補充について令和元年7月の教員審査を受審したが、不可となった。ただ担当科目は演習科目であり、同じ領域の専任教員と複数名で担当している科目のため、後任は兼任講師での対応することとした。また、退職した教授の授業については、同領域の専任教員教授1名を後任として補充した。退職した准教授の科目は共通科目の選択授業のため、後任を兼任講師とした。なお、この兼任講師は、退職した准教授に依頼をしている。すべての科目の後任を補充しているため、学生の履修等への影響はない。学生にはガイダンスにて周知している。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画	
認 可 時 (平成31年)	設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の理論および応用を教授研究するという大学院の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	設置計画の専任教員について、専任教員が1名、兼任講師1名が就任を辞退し、欠員が生じている。 その他の設置計画については、確実に履行されている。(元) 設置計画の専任教員について、専任教員の助教1名が就任を辞退し、教授1名・准教授1名・助教1名が辞任した。また、兼任講師2名が就任を辞退した。それに伴う教員補充として、専任教員の教授3名・兼任講師5名が就任した。その他の設置計画については、確実に履行されている。(2)	履行中	設置時の計画より助教の専任教員が1名辞職したが、専任の助教1名を令和元年7月の教員審査に受審させ、教員を補充する予定である。また、兼任講師についても1名専任教員に採用したため、令和元年5月下旬に1名の兼任講師の補充する予定である。(元) 設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画通りに実施し、看護学研究科の充実した教育研究活動を行い、その水準を一層向上させるよう努める。(2)

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学研究科 看護学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
4月より対面授業での講義を実施	4月はコロナウィルスの感染症対策のため、対面授業を実施せずZOOM等の遠隔授業を実施した。 今後の遠隔授業の実施についても地域の感染状況等を十分に踏まえながら適切に実施していく。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 大学院のFD・SDについては、運営会議での企画及び調整を受けて、各委員会等が実施する。 また、授業評価については、学長戦略室に評価部門を置いている。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 運営会議は、原則毎月1回開催しており、学長戦略室は必要に応じて開催している。</p> <p>c 委員会の審議事項等 運営会議 FD・SD活動の企画及び調整 学長戦略室 授業評価に関すること</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 運営会議 研究公正について～利益相反と不正防止を中心に～ （科研費）ファンドライティング講座 高度実践看護教育のこれまで、現在、これから 研究交流会 学長戦略室 授業評価アンケートの実施 教員による授業評価について</p> <p>b 実施方法 FD・SDについては、大学院の講義を担当する専任教員を含むすべての大学教員を対象に実施する。 授業評価アンケートについては、すべての科目についてアンケートを実施する。 教員は、学生の授業評価アンケートを基に教授方法を検討・改善するために教員による授業評価を作成する。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む） 運営会議 研究公正について～利益相反と不正防止を中心に～（令和元年7月25日：17名出席） （科研費）ファンドライティング講座（令和元年8月29日：1名出席） 高度実践看護教育のこれまで、現在、これから（令和元年11月28日：17名出席） 研究交流会（令和2年2月17日：13名出席）</p>
--

学長戦略室

授業評価アンケート（令和元年の前期・後期授業については、年度末3月に全科目実施）

教員による授業評価について（年度終了後実施）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教育の実際とその成果を明らかにし、看護の教育課程、教授方法を検討・改善するために、授業評価アンケートを基に、教員による授業評価を作成している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

1年目は、学年終了後に前期、後期分の授業アンケートをまとめて実施した。また、2年目以降は、前期終了後と後期終了後にそれぞれの学期の終了後に授業アンケートを実施をする。

b 教員や学生への公開状況、方法等

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。

併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

該当なし

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

亀田医療大学大学院看護学研究科看護学専攻は、南房総地域の健康課題と医療ニーズに対応し、看護の質向上に寄与する教育・研究能力を基盤とする実践者としての能力を有する人材を育成するために設置したものであり、看護医療分野に関する学術の理論及び応用を教授研究し、深い学識及び卓越した教育・研究・実践能力を培い、看護学及び医科学の発展と地域社会における人々の健康と福祉の向上に寄与することを目的としている。

大学院開設後2年目を迎え、学位論文については研究計画書の審査や倫理審査も設置時の計画どおり実施されており、学位論文審査に向けて滞りなく実施されている。また、教育課程においても本学の趣旨・目的達成のに向けて確実に実施されている。

開設2年度も開設年度同様に、教育課程等を設置計画通り実施し、看護学研究科の設置の趣旨・目的の達成に努める。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和2年9月末 公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定（令和2年9月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

令和7年度に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受ける

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 [-]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

亀田医療大学 大学運営会議規程

平成 27 年 2 月 23 日 制定

(趣旨)

第 1 条 この規程は、亀田医療大学（以下「本学」という。）大学運営会議の設置運営等について必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第 1 条の 2 大学運営会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 本学運営に関する重要事項の連絡、調整及び協議
- (2) 本学における FD・SD 活動の企画及び調整
- (3) その他本学の運営に関し必要かつ重要な事項

(組織)

第 2 条 大学運営会議は、次の者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学長特命補佐
- (4) 学部長
- (5) 事務局長
- (6) 財務部長
- (7) その他学長が必要と認めた者

(議長)

第 3 条 大学運営会議の議事を整理するため議長を置き、学長をもって充てる。

- 2 大学運営会議に副議長を置く。
- 3 副議長は、議長が指名する者をもって充てる。
- 4 副議長は、議長に事故あるときは、その職務を代理する。

(議事)

第 4 条 大学運営会議は、議長が招集する。

- 2 大学運営会議は、構成員の 3 分の 2 以上の出席をもって成立する。

(構成員以外の出席)

第 5 条 議長は、必要と認めたときは、構成員以外の者を出席させ、意見を求めることができる。

(事務)

第 6 条 大学運営会議に関する事務は、総務課が担当する。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、大学運営会議が定める。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成30年5月10日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

学校法人鉄蕉館 亀田医療大学学長戦略室規程

(平成 29 年 9 月 4 日制定)

(趣旨)

第 1 条 亀田医療大学に、大学運営を円滑に遂行するため、学長戦略室を置く。

(任務)

第 2 条 学長戦略室は、学長の下、戦略的な大学運営に関し統括的な観点から、調査分析及び企画立案することをその任務とする。

(組織)

第 3 条 学長戦略室は、学長が指名する者をもって組織する。

2 学長戦略室に室長を置き、学長が指名する者をもって充てる。

(任期)

第 4 条 学長戦略室員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、室員を任命した学長の任期を超えることはできない。なお、室員に欠員が生じたときの補欠室員の任期は、前任者の残任期間とする。

(部門)

第 5 条 学長戦略室に次の部門を置く。

一 評価部門

二 IR 部門

2 前項各号の部門ごとに、部門長及び部門員を置く。

3 前項の部門長及び部門員は、学長が指名する学長戦略室員をもって充てる。

(部門の職務)

第 6 条 評価部門は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

一 教員の業績評価に関すること。

二 機関別認証評価、第三者評価及び自己点検評価に関すること。

三 授業評価に関すること。

四 その他評価に関すること。

2 IR 部門は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

一 大学が保有する各種資料・情報の収集・分析及び提供に関すること。

- 二 大学運営に資する各種情報の収集・分析及び提供に関する事。
- 三 IRの普及促進に関する事。
- 四 その他IRに関する事。

(プロジェクトチームの設置)

第7条 学長戦略室には、必要に応じてプロジェクトチームを置くことができる。

2 プロジェクトチームの目的、構成員その他プロジェクトチームに関し必要な事項は、学長が定める。

(その他)

第8条 この規程に定めるほか、学長戦略室に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成29年9月4日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年5月10日から施行し、平成30年4月1日から適用する。